

## 近世の宗教

## Overview

- ✦ キリシタンとその影響
- ✦ 神道とナショナリズム

## キリシタンと その影響

## カトリックの伝来

- ✦ 1549年、イエズス会のフランシスコ・ザビエル（1506-1552）がキリスト教（カトリック）を伝える。
- ✦ ザビエルはパリでイエズス会の設立に関わった（1534年）。
- ✦ 鹿児島、山口を経て京都へ。再度、山口、鹿児島へ（1551年まで）。
- ✦ 日本宗教を研究。当初、神を「大日」と訳す。違いがわかった後、「ダイウス（デウス）」と呼ぶ。



## キリシタンの拡大



- ✦ 九州では、南蛮貿易の利益を期待して、大名たちがキリシタンに改宗。
- ✦ 京都では、高槻城主・高山右近（1552-1615）がキリシタンに。
- ✦ 織田信長は宣教師フロイスに布教を許可し、京都四条に南蛮寺を建てさせた（1576年）。



ばてれん

## 伴天連追放令

- ◆ 豊臣秀吉は最初キリシタンを保護していたが、1587年に伴天連追放令を出す。
  - ◆ 伴天連：ポルトガル語 Padre（神父）から
- ◆ 「日本ハ神国たる処きりしたん国より邪法を授け候ふ儀、太（はなは）だ以て然る可からず候ふ事」
  - ◆ 秀吉は自らを絶対的な支配者として神仏の中に位置づけることを望んだ。
- ◆ 1597年、長崎二十六聖人殉教



## キリシタンの全国的拡大と弾圧

- ◆ フランシスコ会、アウグスチノ会、ドミニコ会も来日
- ◆ 江戸幕府が開かれた17世紀初頭、キリシタンは最盛期を迎える。
  - ◆ 全国の信者は70万人。民衆の中に根を下ろす。
- ◆ 1613年、キリシタン禁教令
- ◆ 1628年、踏み絵の開始



## 島原の乱とその後

- ◆ 1637-38年、約4万人が原城に立てこもって抵抗。
- ◆ 1639年、鎖国の本格化。
- ◆ 1664年、寺請制度（檀家制度、寺檀制度）の開始
- ◆ 17世紀末にはキリシタンはほぼ消滅。
  - ◆ ごく一部は「隠れキリシタン」として200年以上にわたり信仰を守る。

## 島原の乱関係の文学作品

- ◆ 石牟礼道子『アニマの鳥』筑摩書房、1999年。
  - ◆ 歴史資料に裏付けられた壮大なドラマ。
- ◆ 遠藤周作『沈黙』新潮社、1966年
  - ◆ 島原の乱直後の時代を描く。



## 神道と ナショナリズム

## 天皇の復権

- 水戸学
  - 儒教と神道を取り入れて尊皇を唱える。
- 国学
  - 本居宣長、平田篤胤らによって発展。
- 水戸学、国学ともに、明治維新の指導原理となる

## 本居宣長（1730-1801）

- 『古事記伝』：『古事記』の「聖典化」
- 天照大神—天皇という一元的な系譜の確立
- 漢意（からごころ）の排除
  - 「第一に、漢意・儒意を、淨く濯（すす）ぎ去て、やまと魂をかたくする事を、要とすべし」（『うひ山ぶみ』）。



## 平田篤胤（1776-1843）

- 復古神道
- 天皇は記紀神話をはじめとする古典によって絶対化される。儒教・仏教と習合した神道を批判。



## 日本的古層の再発見

- 「古層」の再発見と創作（invention）
  - 純日本的な原理の探求
- 古典の再聖典化（re-canonization）
  - 天皇の神性の実証

## 次週から：近現代における日本宗教

- 10週 宗教を規定する政治力学 → 序論・第一章
- 11週 近代日本における政教分離の形成と構造 → 第二・三章
- 12週 一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリティーク → 第四章
- 13週 宗教の多元化と多元主義 → 第五章
- 14週 信仰の土着化とナショナリズムの相関関係 → 第六章

